

「大雪冬のレクスポーツ祭典」事業報告書

1 事業実施の背景

本事業は、北海道の冬の寒さと豊富な雪の中で行う遊びの場や、工作体験の場を提供することで、子供たちが厳しい冬をたくましく生きる素地を身につけることを期して行われたものである。

国立青少年教育振興機構では、平成22年から「体験の風をおこそう」運動を全国展開しており、青少年の体験活動の教育的な意義や効果は明らかである。

北海道の子供たちは、全国と比べて体力が低い傾向にあるという調査結果が出ている。その要因の一つとして、冬季の外遊びが少ないとの指摘がある。このような要因を解消するためには、冬季の外遊びに対する子供たちの興味・関心を高めることが必要である。また、外遊びを行う際には、一緒に遊ぶ仲の良い友達の存在があることで、効果がより高まると考えられる。

このような考えから、屋外に広がる様々な地形を生かしたブースや、工作ブースを設け、参加した子供たちが、明るく、仲良く、元気よく活動ができるような事業を実施した。

2 事業趣旨

北海道の生活に身近な「雪」を楽しんだり、工作したりするプログラムを子供たちに提供し、明るく、仲良く、元気よく活動することで、冬をたくましく生きる素地を身につける機会を得るものとする。

3 主催・主幹

北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 事業概要

- ・期 日 平成 29 年 2 月 26 日（日）10:00～15:00
- ・会 場 国立大雪青少年交流の家及びその周辺
- ・対 象 美瑛町民及び近隣市町村の住民
- ・参加期待数 1,400 名
- ・協力・協賛 (株)雪印パーラー

5 広報

美瑛町小・中学校・高等学校・幼稚園・保育所・旭川市内幼稚園・保育所へのチラシの配布、ホームページへの掲載、上川管内報道機関各社への周知、美瑛防災行政無線での広報を行った。

6 参加者人員・類型

参加者 1,593 人

7 事業日程・内容

(1) 日程

	16:00	16:30	17:20	18:30	20:30
2月25日 (土)	入所 受付	オリエン テーション っどい	夕食	紙袋ランタン制作	入浴 就寝
	10:00	12:00	13:00	15:00	
2月26日 (日)	午前の部	休憩	午後の部		

(2) 概要・運営のポイント

前泊の家族団体に、工作体験「紙袋ランタン制作」を提供し、大人も子供も楽しめるように様々な難易度の型紙を用意した。当日は、施設内外にブースを設置し、参加者が施設のいたるところで多くの体験活動が行えるようにした。また、館内放送を使用し、もちつきやスノーシューハイクなど定刻で開催される活動についてのアナウンスを行った。

(3) 各プログラム内容

【屋外ブース】

①「スノースライダー」ブース

施設内にあるスキースロープに、雪で作った滑り台を設置した。参加者は、この滑り台をゴムチューブで滑り降りていった。当日は、雪質もちょうどよく、乗り場と降り場に職員が配置された状態で、参加者は安全かつスピーディに滑り降りることができ、十分に楽しむことができた。

また、参加者の男女比を見ると、ほぼ同数となっており、男女の別なく、興味・関心をもって参加してもらえた様子であった。



②「バナナボート」ブース

交流の家のグラウンド内に周回コースを設置し、膨らませたバナナボートを、スノーモービルで牽引して走らせた。参加者は、歓声をあげながら、雪上を滑走するバナナボートを楽しむことができた。

参加者からは、このブースがかなり好評で、参加人数が全ブースで最も多かった。また、繰り返し体験したいと希望する参加者もいた。



③「雪上ボウリング」ブース

雪上にピンを立てて、ボウリングを行った。ルールは、ゴム製のボウリング玉を3回投げ、倒したピン（毎回10本に戻る）の合計本数が多い順で1位から3位までを決めるというもの。

参加者は、好成績を目指して熱心に取り組み、中には繰り返し挑戦する参加者もいた。競技が終わり、表彰された参加者は皆満足そうな表情で、入賞の証であるメダルと賞状とを受け取った。



④「雪中デザートづくり・ホットドリンク」ブース

交流の家玄関前にブースを設置し、「焼きマシュマロづくり」体験やココアの提供を行った。ブースには、当日の寒さもあり、多くの人が集まった。マシュマロを炭火で炙ったり、串に刺したバナナを溶かしたチョコレートにつけて食べたりと、参加者の好みに合わせたデザートづくりが行われた。



⑤「スノーシューハイク」

参加者が集まらなかったため、実施されなかった。

【屋内ブース】

⑥「クラフト体験」ブース

施設内の研修室を会場に、「七宝焼き」と「アロマキャンドルづくり」の体験活動を提供した。子供から大人まで、幅広い層の参加者が集い、クラフト作成を楽しんだ。

金属製の薄い板の上に、水で溶いた色つきガラス粉末を少しずつ載せていく作業に、真剣な表情で取り組む参加者の姿が印象的であった。



⑦「カプラ積み」ブース

交流の家体育館を会場に、「カプラ」という小さな木の板を高く積み上げるという競技を行った。

規定時間内で、最も高く積み上げた順に1位～3位を決定し、「雪上ボウリング」同様、メダルと賞状の授与を行った。

一枚一枚、慎重に木を積み上げていく参加者の表情には真剣さが見られた。



⑧「もちつき」ブース

体育館を会場に、交流の家のレストラン「雪印パーラー」に協力を仰ぎながら、もちつきを行った。

このブースでは、定期的に交流の家を利用している美瑛町の水泳のグループ「嵯城グループ」の方々にもご協力をいただき、ついたもちを雑煮にして、参加者に提供した。

重い杵を力いっぱい振るいながら、多くの子供たちがもちつき体験を行うことができた。また、つくたてのもちの柔らかさに笑顔を浮かべ、ほおぼる参加者も多く見られた。



【宿泊プラン】

⑨「紙袋ランタン制作」

祭典に参加するために前泊を行った家族団体に向けて、工作体験を提供した。参加者は、難易度の異なる様々な種類の型紙を選び、ランタンの製作を行った。

作業中、子供たちは保護者や友達と楽しく会話をしながら作業に取り組んだ。一方、保護者も子供たちの安全を気遣い、声をかけながらも、自分の作品を仕上げするために熱心に取り組んだ。

作業後は、完成したランタンを玄関前に飾り、雪面を照らす暖かいランタンの灯を参加者全員で観賞した。



8 事業の成果

冬の体験活動の祭典として、自然の特徴を生かした様々なブースを設け、多くの参加者に体験してもらい、交流の家で行うことのできる活動について知ってもらう機会を提供することができた。また、前泊の家族団体にランタンづくりをとおして、家族内交流や家族間交流を行う場を提供することもできた。以上のことから、事業の趣旨については、概ね達成できたと考えられる。

参加者が、ここに来て楽しかったという満足感を味わい、体験活動への興味関心を高め、これ以外のものにも参加してみたいと思う契機として、本事業を実施することができた。

9 事業の課題

計画したブースの中で、スノーシューハイクの参加希望がなかったため、スノーシュー体験について、情報提供や広報を行い、参加者に興味をもってもらえるように工夫する必要がある。あるいは、これに代わる他の活動を実施することも視野に入れて計画を立てていく必要がある。次年度に向けた検討課題としたい。

また、本事業では、5名のボランティアの協力があつたが、次年度はより多くの人員を確保した上で、ボランティアの自主企画ブース運営を任せるなど、ボランティアの研鑽の契機とすることも検討したい。

最後に、参加者が体験でどのように変容したかは、イベント形式の事業では、把握することが難しい面もあるが、ニーズの把握を含め、簡単なアンケートを取る工夫が必要である。